

はじめに

1. 短期大学の現況及び特徴

1) 短期大学名 岐阜市立女子短期大学

2) 所在地 岐阜県岐阜市

3) 学科等の構成

学科： 英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科

専攻科： なし

4) 学生数及び教職員数（平成25年4月1日現在）

学生数： 学科517人

専任教員数： 33人（学長含む）

助手数： 4人（+嘱託2人）

事務職員数： 16人（専任9人、嘱託職員7人）

2. 特徴

岐阜市立女子短期大学は、「戦後の復興は女子の高等教育にある」との高邁な理想を掲げて、昭和21年5月30日に岐阜市が設立した岐阜女子専門学校を前身としている。その後、時代の変遷に応じて数度学科を改組し、昭和63年には、岐阜市立女子短期大学と名称を変更し、岐阜県で唯一の公立短期大学として、地域の発展や文化の向上に寄与する優れた人材を輩出してきた。短期大学となって以後、平成25年3月までに1万4千名近くの卒業生を輩出した。平成2年度までは教職課程をもっており、教職に従事したものも数多くいた。平成6年頃までは岐阜県と愛知県の地元からの入学者が圧倒的であったが、それ以後は、この2県以外の全国各地からの入学者が漸増し、現在では年度によって多少の変動はあるが、20%程度が2県以外から入学している。

平成12年4月には、長良福光から現在の一日市場へ移転してキャンパスの拡張と建物の新営化を図ったのに伴い、学科の大幅な改組を行った。国際化時代に対応する目的で英文学科を英語英文学科と改称して、英会話などの実用英語を充実させた。また、被服学科を生活デザイン学科と改称して、これまでの被服材料の科

学的な分析や、衣服の製作から、よりデザイン力育成に重点を置くとともに、アパレルのみならずインテリアの分野を新たに設けた。さらに、国際化・情報化の時代に対応する人材の育成をめざして、国際文化学科を新設した。その後も、後に詳述するように、生活デザイン学科の3専修への改編をはじめ、各学科とも大小のカリキュラム改編を行い、時代状況を反映させるとともに、不断の努力を通じて教育内容の充実に努めているところである。

3. 本報告の趣旨と目的

本学は、平成21年度に大学評価・学位授与機構による認証評価を受けた。現在では7年に1度の認証評価が義務付けられており、予定では平成28年度に2回目の認証評価を受けることになるが、平成24-25年度はその折り返し点にあたる。

大学・短大評価も第2ラウンドを迎え、その内容や方式にも変化の兆しがうかがわれる。評価点検の項目が整理されるとともに、「内部質保証」が強く問われるところとなっている。そのポイントは、大学改革や教育内容の改善がどのように行われているかはもちろんのこと、それが公表されているか、改善などの諸措置を実効あるものとする責任体制、定期的な検証システムは構築されているか、など大学の教育、研究、社会連携、管理運営などにわたってのガバナンスの質が問われるようになっている。この内部質保証システムの構築は、いわば今始まったばかりであり、本学においても十分な対応ができていない。そこで、今回は、大学基準協会の認証評価マニュアルを参考に、可能なかぎり、その点検項目にしたがって自己評価を行うこととした。不十分さも残すが、来年度の「外部評価」を踏まえ、平成27年度には認証評価に耐える報告書ができるようしっかり準備する予定にしている。同時に、本学の将来に向けて、大胆に問題点を探り、これまでの成果を踏まえつつ、学生たちの熱い期待と願望、この地域の要請に応えうる魅力のあるしなやかな立ち振る舞いができるよう、短期大学としてより充実したものへ、あるいはその枠を超えた大きな構想にも応えうるものへと自己改革を続けられるよう、これまで以上に努力を続けたいと考えている。